

## 第54回 臨床検査技師国家試験終わる！

臨床検査技師の国家試験が、去る2月29日(金曜日)に全国9都市で開催されました。

今回の国家試験では出題形式に大きな変化がありました。従来までの国家試験は、毎年ほぼ同じように科目別ごとに問題が配列され、午前の科目と午後の科目は区別されていました。

今回の国家試験では、従来の科目の順とは異なり、全科目がほぼ従来の問題数のおおよそ半数ずつ、午前、午後に出題されました。この変更は事前に知らされていなかったため、試験開始時には受験した学生は大変困惑したようです。

しかし、試験に熱中していくうちにそのようなことも、大きな問題ともせず熱中していったようでした。

日臨技ではこの国家試験の問題について、それぞれの部門の専門家である研究検査部門の部門員で検証を行い、養成校の教員の意見も加え「出題問題疑義」としてまとめ、厚生労働省医政局医事課国家試験係へ提出しました。

さて現在、国家資格は一度合格すれば生涯資格が維持できる制度となっていますが、教員免許更新制が来年度から導入されることとなっています。医療職種についての更新制度導入についても国会で審議され、「各医療職種では各職能団体が生涯教育制度として、自ら研修を行っているので必要ない」との意見が出されています。しかし、医療事故などの問題が発生している中でいつまでもこの状態が維持できるとは限りません。

将来、医療職種の国家資格の更新制度導入が話題に上がらないとも限りません。まずは生涯教育の履修と、臨床検査技師としての最低の要件である国家試験に、我々も関心を示しましょう。

例年国家試験問題は、合格発表のころに厚生労働省のホームページに掲載されます。今回の合格発表は4月4日です。3,000名前後の新しい仲間が加わってきます。温かく迎え、厳しく育てていきましょう。

### ◇ 出題内容についての総括の評価

出題された問題は、卒前教育の範疇で、相対的に適切な問題であり、専門的な知識や日常的検査で必要とされない難解な問題や、例外的な事例はほとんどありませんでした。臨床検査技師としての基礎知識の範囲での問題がほとんどであった。しかし、設問の条件があいまいで、深く考える学生には迷いが生じる問題もいくつか認められた。

部門別の意見ではそれぞれの分野で出題分野の偏りや不足している分野への要望がありました。

臨床生理学では、緊急の危険な心電図に関する問題が、運動負荷試験についての設問というのだけでは、AEDなどの普及により一般の方々も心由来の緊急時対応を学ぶ機会が増えている現在では不十分ではないかと思えます。

生理検査を専門としなくても医療従事者として、一般の方々よりは少し専門的な知識を有しているべきと思われる。今後緊急対応やAEDの適応となる心電図の知識などの出題があっても良いのではと考えました。

また、眼底検査・聴力検査に関しては、今後検査技師が担当する機会が増える項目だとは思われますが、現在は授業や実習などで取り上げられることも少なく、それよりも頸動脈エコーなど動脈硬化関係の検査の方が、病院実習などでも取り上げられているのではと思われます。眼底検査・聴力検査、各1問ずつという問題配分には疑問を感じました。

公衆衛生学では、出題範囲の傾向としては、人口・保健統計に関する出題が3題みられ、全体から考えて偏りがあるように思われる。今後の均一化を望みます。

臨床血液学では、臨床における、形態学の設問が12問中7問ありやや多いかもしれないと感じます。

医動物学(寄生虫学)に関する午後の問題では、4題中3題において正解数が設問以上にあり、不適切であります。出題者は複数の専門家による議論を行ってから出題すべきであります。

### ◇ 国家試験問題に対する個々の意見

#### ◇ 午後の部

問題31：血清カルシウムで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 約50%はイオン型で存在する。
2. 基準範囲は1.0~2.0mEq/lである。
3. 低アルブミン血症では偽高値を示す。
4. アルカローシスではイオン型が増加する。
5. 副甲状腺ホルモン(PTH)の作用で低下する。

(意見)

2択であるが正解数が1つしかない。

選択肢：1のみが正解となる。

問題点：

1. の設問は正しい文章である。
2. の基準範囲は8.5~10.2 mg/dl (4.24~5.10mEq/l)である。
3. はアルブミンが減少すれば総カルシウム濃度は低くなる。
4. のアルカローシスではイオン型カルシウムが減少する。
5. の副甲状腺ホルモン(PTH)は骨を分解し血清カルシウムを増加させる。

よって、正しい文章は1.のみである。

※ 根拠となる資料：浦山修ほか臨床検査学講座、臨床化学検査学第2版、275-276頁、医歯薬出版、東京、2006

【荻津直通】